

産業廃棄物処理計画書

平成29年 6月 29日

京都府知事 殿



提出者

住 所 京都市中京区烏丸通二条上ル蒔絵屋町280

氏 名 住友不動産株式会社 新築そっくりさん事業本部

戸建 第三事業所 京都エリア

京都エリア統括 高山 享士

（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 075-213-7809

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する
計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	住友不動産株式会社 新築そっくりさん事業本部 戸建 第三事業所 京都エリア
事業場の所在地	京都市中京区烏丸通二条上ル蒔絵屋町280
計画期間	H29.4.1 ～ H30.3.31
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	06 総合工事業
②事業の規模	300,000万円
③従業員数	50
④産業廃棄物の一連の処理の工程	建築リフォーム工事。 がれき類、木くず、金属くず、石膏ボード等 → 処理業者に全委託して埋め立て及び再資源化(別紙フロー図参照)

（日本工業規格 A列4番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図) 別紙管理体制図のとおり

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（27年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計用シートのとおり	
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組) リフォーム工事において、産業廃棄物の発生を極力抑える為、既存を生かしての下地工事を行っている。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計用シートのとおり	
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 上記取り組みの徹底。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) がれき類、木くず、紙くず、金属くず、石膏ボード、土壁等分別するとともに、石綿含有廃棄物についても、他の廃棄物に混入しないように確実に分別及び別保管し、処分を実施。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 上記取り組みの徹底。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計用シートのとおり	
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計用シートのとおり	
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計用シートのとおり	
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減 量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計用シートのとおり	
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減 量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計用シートのとおり	
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計用シートのとおり	
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（ 27年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計用シートのとおり	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者 への処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者 への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以 外 の熱回収を行う業 者	t	t
	(これまでに実施した取組)		
	・委託基準に従って、産業廃棄物を委託できる業者を選定し、書面による契約を実施している。 ・再資源化率の高い事業者を選定している。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計用シートのとおり	
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者 への処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者 への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以 外 の熱回収を行う業 者 への処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
	①取り組みの徹底		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物処理計画書の〔集計用シート〕

- ・下表にない種類の産業廃棄物については、「産業廃棄物の種類」欄に、品目名を記載してください。
- ・行が不足すれば、適宜追加してください。

産業廃棄物の種類	① 排出量(t)		② 自ら資源再生利用した量(t)		③ 自己資源埋立処分又は 海洋投入処分した量(t)		④ 自ら中間処理した量(t)		⑤ ④のうち熱回収を行った量(t)		⑥ 自ら中間処理した後の残量(t)		⑦ 自ら中間処理により減量した量(t)		⑧ 自ら中間処理した後 再生利用した量(t)		⑨ 自ら中間処理した後 埋立処分又は 海洋投入処分した量(t)		⑩ 直接及び自ら自己処理 した後の処理委託量(t)		⑪＝①－②－③－④－⑤－⑥＝⑦＋⑧＋⑨＋⑩＋⑪								⑫＋⑬自ら再生利用を行った量(t)		⑭＋⑮自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った量(t)					
	※ 計 画 に よ る 区 分																				⑬の量のうち、再生利用業者 への処理委託量(t)		⑭の量のうち、認定熱回収施設 等への処理委託量(t)		⑮の量のうち、認定熱回収施設 等以外の熱回収を行っている 処理業者への振替処理委託量		⑯の量のうち、委託して最終等の 中間処理した量(⑪～⑬を除く)		⑰の量のうち、直接委託して 埋立て最終処分した量		⑱の量のうち、委託認定処理業者 への委託処理量		⑫の量と⑬の量を合計したもの (自動計算)		⑭の量と⑮の量を合計したもの (自動計算)	
	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標
※で定められている種類(シュレ ーダートなど、一律不可分のもの については、空欄行に記載して ください)	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標
コンクリート破片	54,020	55															54,020	55	51,020									3,000		54,020	0	0	0	0	0	0
アスファルト・コンクリート 破片	0,000	0															0,000	0											0,000	0	0	0	0	0	0	
その他がれき類	71,040	72															71,040	72	58,500									13,500		71,040	0	0	0	0	0	0
ガラスくず・コンクリートく ず及び陶磁器くず	196,510	200															196,510	200	47,000									149,510		196,510	0	0	0	0	0	0
廃プラスチック類	81,760	82															81,760	82	31,675	50,085									81,760	0	0	0	0	0	0	
金属くず	67,235	70															67,235	70	67,235										67,235	0	0	0	0	0	0	
安定型建設混合廃棄物	33,900	30															33,900	34	9,100									24,800		33,900	0	0	0	0	0	0
建設混合廃棄物	0,000	0															0,000	0											0,000	0	0	0	0	0	0	
紙くず	0,000	0															0,000	0											0,000	0	0	0	0	0	0	
木くず	0,000	0															0,000	0											0,000	0	0	0	0	0	0	
石膏ボード	95,610	97															95,610	97	91,910									3,700		95,610	0	0	0	0	0	0
建設工事の木くず	549,835	555															549,835	555											549,835	0	0	0	0	0	0	
建設工事の紙くず	22,923	24															22,923	24	22,923										22,923	0	0	0	0	0	0	
ダンボール	0,000	0															0,000	0											0,000	0	0	0	0	0	0	
建設工事の繊維くず	5,346	6															5,346	6	0,120	5,226									5,346	0	0	0	0	0	0	
管理型建設混合廃棄物	110,058	110															110,058	120	75,738									34,320		110,058	0	0	0	0	0	0
管理型混合廃棄物	0,000	0															0,000	0											0,000	0	0	0	0	0	0	
新築系混合廃棄物	0,520	0															0,520	0	0,520										0,520	0	0	0	0	0	0	
石焼き缶産業廃棄物	11,883	14															11,883	14										11,833		11,883	0	0	0	0	0	0
																	0,000	0											0,000	0	0	0	0	0	0	
合計	1,300,640	1,315	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1300,640	1329,000	455,741	0,000	55,211	0,000	0,000	0,000	0,000	240,663	0,000	1300,640	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000

(注1)トン未満は原則として四捨五入。ただし、数字が有効であれば小数点以下3桁まで記載は可。

【管理体制図】

29年 6月 29日

